

孫子「行軍篇」

43 孫子曰わく、凡そ軍を処き敵を相ること。

山を絶つには谷に依り、生を視て高きに処り、隆きに戦いては登ること無かれ。此れ山に処るの軍なり。水を絶てば必ず水に遠ざかり、客水を絶ちて来たれば、これを水の内に迎うる勿く、半ば濟らしめてこれを撃つは利なり。戦わんと欲する者は、水に附きて客を迎うること勿かれ。生を視て高きに処り、水流を迎うること無かれ、此れ水上に処るの軍なり。斥沢を絶つには、惟だ亟かに去つて留まること無かれ。若し軍を斥沢の中に交うれば、必ず水草に依りて衆樹を背にせよ。此れ斥沢に処るの軍なり。平陸には易に処りて而して高きを右背にし、死を前にして生を後にせよ。此れ平陸に処るの軍なり。凡そ此の四軍の利は、黄帝の四帝に勝ちし所以なり。

44 凡そ軍は高きを好みて下きを惡み、陽を貴びて陰を賤しむ。

生を養いて実に処り、軍に百疾なきは、是れを必勝と謂う。丘陵隄防には必らず其の陽に処りて而してこれを右背に

す。此れ兵の利、地の助けなり。

45 上に雨ふりて水沫至らば、涉らんと欲する者は、其の定まるを待て。

46 凡そ地に絶澗・天井・天牢・天羅・天陷・天隙あらば、必ず亟かにこれを去りて、近づ

くこと勿かれ。

吾れはこれに遠ざかり、敵にはこれに近づかしめよ。吾れはこれを迎え、敵にはこれに背せしめよ。

47 軍の旁に險阻・潢井・葭葦・山林・薜薜ある者は、必ず謹しんでこれを覆索せよ、此れ

伏姦の処る所なり。

48 敵てきちか近ちかくして静しずかなる者ものは其その險けんを恃たのむなり。

遠とおくして戦たたかいを挑いどむ者は人ひとの進すすむを欲ほつするなり。其その居おる所ところの易いなる者ものは利りするなり。衆しゅうじゆ樹じゆの動うごく者ものは来きたるなり。衆しゅうじゆ草そうの障しょうおほ多たき者ものは疑ぎなり。鳥とりの起たつ者ものは伏ふくなり。獸けものの駭おそく者ものは覆ふくなり。塵ちりたか高くして鋭すどき者ものは車くるまの来きたるなり。卑ひくくして広ひろき者ものは徒との来きたるなり。散さんじて条じょうたつ達たつする者ものは樵しょうさい採さいなり。少すくなくして往おうらい来らいする者ものは軍ぐんを営いとむなり。

49 辞ことばの卑ひくくして備そなえを益ます者ものは進すすむなり。

辞ことばの強つよくして進しんく駆くする者ものは退しりぞくなり。約やくなくして和わを請こう者ものは謀ぼうなり。輕けいしや車しゃの先まず出いでて其その側かたわらに居おる者ものは陳じんするなり。奔ほんそう走そうして兵へいを陳つらぬる者ものは期きするなり。半はんしん進しん半はんたい退たいする者ものは誘さそうなり。

50 杖つえつきて立たつ者ものは飢ううるなり。

汲くみて先まず飲のむ者ものは渴かつするなり。利りを見て進すすまざる者ものは勞つかるるなり。鳥とりの集あつまる者ものは虚むなしきなり。夜よるよ呼よぶ者ものは恐おそるるなり。軍ぐんの擾みだるる者ものは將しょうの重おもからざるなり。旌せい旗きの動うごく者ものは乱みだるるなり。吏りの怒いかる者ものは倦うみたるなり。馬うまに粟ぞくして肉にく食しよくし、軍ぐん

懸瓠けんぷなくして其そのの舍しやに返かえらざる者は窮寇きゆうこうなり。諄じゆん諄じゆん翁きゆうきゆう翁きゆうとして徐おもむろに人ひとと語る者は衆しゆうを失うしなうなり。
 数しばしば賞しょうする者は窘くろしむなり。数しばしば罰ばつする者は困つかるるなり。先さきに暴ぼうにして後のちに其そのの衆しゆうを畏おそるる者は不精ふせいの
 至いたりなり。来きたりて委謝いしやする者は休息きゆうそくを欲ほつするなり。兵怒へいいかりて相あい迎むかえ、久ひさしくして合あわず、又またた解とき去さら
 ざるは、必かならず謹つつしみてこれを察さつせよ。
 兵へいは多おおきを益えきありとするに非あらざるなり。

惟ただ武進ぶしんすること無く、力ちからを併あわせて敵てきを料はからば、以もつて人ひとを取とるに足たらんのみ。夫それ惟ただ慮おもんばかり無くして敵てきを易あなどる者は、
 必かならず人ひとに擒とりこにせらる。卒そつ未いまだ親附しんぶせざるに而しかもこれを罰ばつすれば、則すなわち服ふくせず。復ふくせざれば則すなわち用もちい難がたきなり。卒そつ已すでに
 親附しんぶせるに而しかも罰行ばつおこなわれざれば、則すなわち用もちうべからざるなり。故ゆえにこれを合あするに文ぶんを以もつてし、これを齊ひとのうるに武ぶを以もつ
 てる、是これを必取ひつしゆと謂いう。令れい素もとより行おこなわれて、以もつて其そのの民たみを教すくうれば則すなわち民服たみふくす。令れい素もとより行おこなわれずして、以もつ
 て其そのの民たみを教すくうれば則すなわち民服たみふくせず。令れいの素もとより信しんなる者は衆しゆうと相あい得うるなり。